The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	前期授業概要
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2006, 15, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11997
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

前期授業概要

1	2	3	4	5
4月１６日	4月２３日	5月7日	5月１４日	6月１１日
紀平　知樹　　樫本　直樹 武田　朋士　　濱田　唯	西村　高宏 （コーディネーター　武田　朋士）	寺田　俊郎 （コーディネーター　樫本　直樹）	高橋　綾 （コーディネーター　紀平　知樹）	紀平　知樹 （コーディネーター　濱田　唯）
オリエンテーション	生命１－「ひとはいつ人になるのか」	生命２－「死ぬ権利はあるか」	環境１－「人間と動物の違いはなにか」	環境２－「人間にとって文化とはなにか」
研究室紹介、コーディネーターの自己紹介、今年度の授業計画の説明、アンケートを行いました。 〈アンケート項目〉 ・なぜ「哲学」を選択しましたか ・「哲学」という言葉で何をイメージしましたか ・最近興味をもっていること ・『メチエ』に感想やコメントを書いてみたいか ・好きなお笑い芸人は？（後期・武田の授業の準備のため）	哲学とは、問いを立てる学問であり、情報を適切に処理するためには適切な問いを立てることが必要である。着床前診断、出生前診断による選択的中絶について情報提供し、それをもとに問いを立てる訓練をするというのが、今回の授業の目的であった。 「意志を持たない人にどう対処していくか？」、「受精卵の潜在性を摘む権利はあるのか？」、「生命は流動的なものであり、ヒトはいつ人になるのかという形で、段階的に人であるかどうかを問うのはおかしいのではないか？」などの問いが、講師と生徒とのやりとりも交えながら出された。人数、時間の都合上、一人ひとりの問いが検討されたわけではないが、十分哲学的な問いは出された。	安楽死の法律的分類、尊厳死をめぐるQOL（生命の質）とSOL（生命の神聖さ）の対立状況などを紹介したのち、患者の自己決定権、とりわけ「死ぬ権利」という点について、生徒の質問を受け付けるという形で議論を行う。 授業後半では、死ぬ権利と社会・共同体・他の人々との関係に絞り、生徒達だけで議論させ「問い」の形にしてもらい、その問いを中心に議論をすることを試みた。 議論は活発に行われさまざまな意見は出された。しかし生徒が「問い」の形にする段階に苦労し、さらに議論の抽象度をあげることができなかった。その際の教師側の工夫が課題として残った。	前回までの授業スタイル（情報提供とディスカッション）とすこし趣向を変え、環境に関するテーマで「ソクラテスの対話ゲーム」を行った。 生徒達には３人１組でソクラテス役（質問役）、若者役（答える役）、プラトン役（記録役）に分かれてもらい、問いに関する答えを選択、それぞれ役柄になりきってもらい「なぜそうなのか」について問答をしてもらうというものでした。 大半の生徒が積極的に、楽しんでゲームに参加していた。	映画１０ミニッツ・オールダーのなかの「失われた一万年」を最初に鑑賞し、その後、「人間にとっての環境の意味」というテーマで話し合いをしてもらった。 　テーマが抽象的だったことにも起因しているのか、対話の途中からテーマがずれて行ってしまい、対話に参加できずにいた生徒もいた。